

186-参-農林水産委員会-6号 平成26年04月03日

○徳永エリ君 皆様お疲れさまでございます。民主党・新緑風会の徳永エリでございます。

本日は、まずは南極における捕鯨訴訟の判決について伺いたいと思います。

政府は、一体これ何をやっていたんでしょうか。国際司法裁判所裁判官の意見、反対が四、賛成が十二ということでありまして、完敗です。民主党の捕鯨議連でも政府からいろいろ事情は聴きましたけれども、この判決が出る前は自信があるというような印象を受けておりましたので、この判決に対しては大変に残念であります。

「捕鯨外交 自信が裏目」というふうにも今日の新新聞にも書かれています。「最低でも数千万円単位の弁護士報酬を支払い、世界的権威の弁護士を雇った。完敗はあり得ないとなめていた」と政府関係者の弁と書かれています。鶴岡代理もこれ、少しおごりがあったんじゃないでしょうか。鶴岡代理のコメントも判決に従うというものでありまして、これをどう受け止めたらいいいのかということに関しては大変に困惑をいたしております。

そこで、南極における捕鯨ができなくなるのか、それとも水域の見直し等なのか、その辺り。また、JARPA IIの見直しをするのか、この判決を受けて政府の対応。そして、林大臣、御地元ですから、下関、総理もそうですよね。鶴岡審議官をお呼びになって総理もかなりお怒りになったということも聞いておりますけれども、まずは林大臣の御所見をお伺いしたいと思います。

○国務大臣（林芳正君） 国際司法裁判所が、第二期南極海鯨類捕獲調査が国際捕鯨取締条約第八条一項の規定の範囲内で収まらないと、こう判示したことは誠に残念でありまして、深く失望しております。私のところにも昨日、鶴岡代理人が来られまして、最初深々とおわびをされましたので、私はそれほど、総理ほど叱責をしたというところまでいかなかったかもしれませんが、やはりちょっとここの趣旨はお伝えをしたところでございます。

鯨類、これはほかの水産資源と同様に重要な食料資源でございます。日本のように海に囲まれている国が海からたんぱく質を取るということは非常に重要であると考えておりまして、そういう意味で、科学的根拠に基づいて持続的にこれを利用していくべきという我が国の基本的な考え方は変わらないということをお願いいたします。

今回の判決の結果は残念ではありますが、我が国は商業捕鯨の再開を目指すということによって、鯨肉の供給の確保、鯨食文化の維持、これを図ってまいりたいと、こういうふうに思っております。

今後の対応につきましてですが、判決の内容、これはかなり分厚いもの出ております、また現地に行かれた方が帰ってこられるということもありますので、これを慎重に検討した上で早急に対応を検討していきたいと、こういうふうに考えております。

○徳永エリ君 この問題に関しては、この後、小川委員が厳しく御質問をさせていただくことになると思いますが、私からは幾つかお願いをさせていただきたいと思っております。

今大臣からもお話がありましたけれども、まず、捕鯨やその食文化は我が国の貴重な文化の一つであり、これまでもIWCの席上や様々な国際会議を通じ、政府は我が国の捕鯨に対する立場を説明され、また一定の理解も得て今日まで調査捕鯨を続けていくことができました。現にIWCでは、我が国の主張を支持してくださる加盟国が少なからずあります。これらの国々は、水産分野を中心に我が国が国際会議上で展開する様々な主張への強力な後押しをしてくださる重要な協力国でもあるわけです。こういった方々にも日本の今後の対応をしっかりと説明させていただきたいということ。

また、判決を受けて、当事者である関係団体、それから船員の方々、また鯨肉を扱っている食品産業の方々は大変に不安な気持ちでいっぱいです。早くこの判決文を精査していただいて、何が問題なのか、捕獲頭数なのか、水域なのか、その上で何ができるのか、御判断をいただきまして対応してください。

そして、国の政策を信じ、認可を受けて調査を実施してきた皆さんです。関係者の皆さんの仕事、それから暮らしにもくれぐれも影響が出ないように、また、日本の伝統である捕鯨、鯨肉を食する食文化をしっかりと守る、その強い思いで対応していただきたいということをお願いさせていただきます。

大臣、いかがですか。

○国務大臣（林芳正君） 一つ一つ誠にごもったもな御指摘だと、こういうふうになっておりますので、先ほど申し上げましたように、早急にこの対応を検討する。それから、持続的利用を支持してくださる国々の皆さんとの連携、これは大変大事だと思っております。私も、実は自民党の捕鯨議連の幹事長ということで、IWCにも下関の総会を含めかなり毎年のように行ってまいりましたので、そういうところにきちっと一緒に引き続き頑張っていこうということになるように、しっかりと対応していきたいと思っております。